

## 愛媛県環境影響評価審査会の会議結果

- 1 会議の名称 愛媛県環境影響評価審査会
- 2 開催日時 令和7年2月10日(月) 9:30~12:00
- 3 開催場所 愛媛県水産会館6階 大会議室
- 4 出席者 委員9名、事務局7名、関係課2名  
事業者 松山市7名、大王製紙株式会社6名

### 5 審議事項(議題)

- 松山市新南クリーンセンター整備事業環境影響評価方法書(松山市)
- 大王製紙三島工場リサイクル発電設備設置事業環境影響評価準備書(大王製紙株式会社)

### 6 審議内容(全部公開:傍聴者10名)

#### <結論>

- 「松山市新南クリーンセンター整備事業環境影響評価方法書」について、前回(令和6年11月29日)及び今回の審議を踏まえ、審査会意見(案)を取りまとめ、各委員に諮った上で、審査会意見として答申することとなった。
- 「大王製紙三島工場リサイクル発電設備設置事業環境影響評価準備書」について、次回までに取りまとめられる住民意見及び関係市長意見とそれらに対する事業者見解等を踏まえて、次回(第2回目)審査会で検討を行い、審査会としての意見を取りまとめることとなった。

#### <委員からの主な意見等>

#### 松山市新南クリーンセンター整備事業環境影響評価方法書

##### 【貴田委員】

資料2-4のNo.1の理由は理解できるが、この基本計画自体に疑義がある。粗大ごみだけが増加することに疑義がある。直近のトレンドからの推計とのことだが、普通感覚として理解しにくい。全国的に見て、松山市と同等の規模の自治体で粗大ごみが増加するということがあるのであれば、理解するが、推計に問題があったのかもしれないと思うが、コメントとしておく。

処理する災害廃棄物の発生量は、愛媛県のどこの地域の発生量かを確認したい。

##### 【松山市】

災害廃棄物の見込み量は、広域化後の松山ブロック(3市3町)で発生する量として計画している。

##### 【貴田委員】

松山市が考えることではないかもしれないが、四国全体又は愛媛県でも松山市の処理能力が期待されているのであれば、そのことを考慮しておいたほうがいいのではないかと思う。

##### 【高橋会長】

大規模災害が起これば、このクリーンセンターは機能しない可能性があり、ほとんどが埋立処分になると思う。

【貴田委員】

南海トラフ地震では、高知県が最も被害を受けるので、四国全体として高知県を支援することを検討する必要があるかもしれない。高橋会長の意見のように、災害発生直後は焼却施設は機能しないかもしれないが、最終的には可燃ごみの焼却は必要となってくると思う。この審査会の議論ではないと思うが、意見として申しておきたい。

【村上委員】

松前町における遺跡の登録や調査が行き届いていないところがあるので、少し心配しているが、位置関係的には問題ないと思うものの、確認だけはしてもらいたい。

【柿原委員】

12ページの3回目の住民説明会の質問で、負のイメージを解消してほしいという意見に対して、他自治体の施設ではどのような対策をとっているのか、地元住民にも具体的に説明したほうがわかりやすいのではないかと。今後は、その点も配慮してもらいたい。

【松山市】

2年前には地元住民と一緒に、他市の施設の見学等も行うなどの対応を行っている。

【高橋会長】

負のイメージがあるということだが、自分たちが発生させた廃棄物の処理であり、必要不可欠のもので、その点は地元住民も理解する必要がある。土壌汚染も自分たちが発生させて処理した廃棄物が原因であると思う。そういった前提で、最新の技術を用いて排ガス処理等を適切に実施するなど、環境負荷を最小限にしていくことが重要である。

【日鷹委員】

要約書4-39の地図で、ここはサイクリングロードと接していると思うが、大気汚染や臭いなどが気になる人もいるのではないかと。市民だけではなく世界中の人たちがサイクリングに利用する可能性もあるので、景観等も含めて、そういった点を世界基準で対応できるように検討してほしい。

【高橋会長】

地元の中学校で、重信川の水質調査を行っているところもある。調査している子どもたちの意見も聞きながら、対策を進めてほしい。

【佐藤委員】

土壌汚染の報道発表資料について、汚染範囲や適切な対策とは具体的にはどういったものか。

【松山市】

範囲としては、今後整備する範囲で汚染が判明した。今後は、深度方向の調査を実施して汚染範囲の調査を進め、調査結果を踏まえ対策等を検討していく。

【有光委員】

この報道は、住民説明会の後で報道されているようだが、近隣住民等から意見や問い合わせ等はなかったか。

【松山市】

住民から土壌汚染の程度は問題ないか等の問い合わせがあったが、健康影響はないことについて丁寧に説明したところ。

【有光委員】

住民もいきなり発表されたら驚くところもあると思うので、周知等は工夫してもらいたい。

【高橋会長】

土壌汚染については別の委員会等でも審議されると思うので、この審査会での議論はこのあたりに留めておきたい。

【貴田委員】

松山市は同様の規模の自治体の中で、ごみの発生量の少なさが10年くらい全国で1位だったと思うので、本当にすごいことだと思う。住民と自治体がともに取り組んできた成果だと思う。この点については、しっかりアピールしたほうがいい。

【柿原委員】

この計画は可燃ごみの焼却事業であるが、不燃ごみの広域処理も検討してもらおうと、さらに再資源化等が推進されるのではないかと思う。不燃ごみ処理の今後の計画はどうか。

【松山市】

不燃ごみについては、埋立処分が主になり、特定の最終処分場に負荷がかかってしまうので、現状、広域処理の対象外としている。ただ、柿原委員のおっしゃるとおり、不燃ごみの広域処理は再資源化の推進に寄与する可能性があるので、今後もブロック会議において検討を続けてまいりたい。

【日鷹委員】

立地場所が河川に囲まれた中州であるため、大規模災害の際の懸念として液状化がある。この点も整備計画においては考慮して検討を進める必要がある。

【高橋会長】

騒音や悪臭等については、敷地外への対策だけではなく、施設で働いている方々への配慮もしてもらいたい。

【佐藤委員】

資料 2-4 の回答のグラフや表のデータは方法書には記載がないので、せっかくなので図書にも掲載した方がわかりやすいと思う。

【松山市】

準備書において記載できるように対応したい。

【高橋会長】

本案件については、

- ごみ焼却場の負のイメージの解消に向けた広報等をしっかりしてもらいたい。
- サイクリングロードが近接することから、施設整備においては、景観等も含めて配慮してもらいたい。

という意見があった。

前回及び今回の審議を踏まえ、審査会意見（案）を取りまとめ、各委員に諮った上で、審査会意見として知事へ答申する。

## 大王製紙三島工場リサイクル発電設備設置事業環境影響評価準備書

### 【貴田委員】

焼却炉のメーカーは決まっているか。

### 【大王製紙】

候補はいくつかあるが、まだ決定はしていない。

### 【貴田委員】

高塩素燃料ということで、塩素による配管等の腐食や排ガス処理についての懸念がある。特に気になったのが、排ガス処理方式がバグフィルター及び湿式集塵という点である。産業廃棄物処理施設であれば、湿式集塵だけという施設が多いが、この施設では、バグフィルターの後で湿式集塵を行う設計としているが、理由は何か。湿式集塵だけではだめなのか。

### 【大王製紙】

高塩素燃料使用の腐食リスクは弊社でも心配しており、検討しているメーカーの施設が導入されているスウェーデン、イギリス、スペインといった海外施設の視察を行ってきたところ。その視察において、バグフィルターの後に湿式集塵を行っている施設が多かったことから、同様の設計にしている。

### 【貴田委員】

廃棄物の焼却技術としては日本が進んでいるという認識だが、国内のメーカーを検討しても十分問題ないと思う。また、塩素含有量1%程度であれば、高塩素とも言えないと思うので、バグフィルターだけや湿式集塵だけの排ガス処理でも問題ないのではないか。

### 【大王製紙】

高塩素という表現は、弊社が今まで取り扱ってきた燃料（塩素含有量 0.3%）と比較して用いている。メーカーについては、国内も含めて検討しているが、湿式集塵については、様々な検討を行った結果、導入したいと考えている。

### 【貴田委員】

これまでの廃棄物のリサイクル率が高いのは、性状が安定していたからと思うが、今後の廃棄物由来の燃え殻やばいじんについては、有害物質を含むと考えておいたほうがよく、廃棄物のリサイクルは難しくなることが懸念される。実際に受け入れてもらえる施設があるのかが心配である。

### 【大王製紙】

弊社から排出する廃棄物に含まれる有害物質には十分注意して、リサイクルを推進してまいりたい。

### 【佐藤委員】

資料編の測定データの年月日について、月日しか記載されていないので、正確に記載したほうがいい。

### 【大王製紙】

評価書において、資料編の年月日の正確な記載を行いたい。

### 【貴田委員】

25号ボイラーと26号ボイラーの違いをもう少し具体的に説明してほしい。

### 【大王製紙】

大きさが異なるだけで、基本的には変わらない。廃棄物の保管場所の配置を踏まえて、25号ボイラーは廃プラスチック類を、26号ボイラーは製紙スラッジを中心に処理することを想定している。

【佐藤委員】

ボイラーの通常使用量と最大処理量の違いがわかりにくいので、定義を記載しておいてもらいたい。

【大王製紙】

通常使用量は購入燃料と廃棄物を混焼した場合で、最大処理量は、購入燃料は使用せず、廃棄物のみを燃焼した場合の処理量となっている。定義の記載については、評価書で対応したい。

【柿原委員】

購入燃料については、海外からのものがあれば、外来種の侵入のリスクが気になるが、計画はどうか。

【大王製紙】

現状は、国内からの調達としており、海外からの輸入は計画していない。

【柿原委員】

今後、仮に海外から輸入することがあれば、注意してもらいたい。

【日鷹委員】

東予地域で港からの外来種の侵入が多いという認識がある。工場内であっても、コンクリートの隙間があれば、ヒアリやアルゼンチンアリなどの侵入、繁殖のリスクがあるので、外来種の侵入対策について留意してもらいたい。

また、今回の計画は、ボイラーの更新という省エネルギーや地球温暖化対策の面から非常に良いことだと思うが、既存の主要ボイラーの完成年月が昭和40年代の古いものもあるようである。これらのボイラーの更新計画はどうか。

【大王製紙】

古いボイラーについては、改造等を行って手を加えながら、厳しい環境法令の排出基準にも対応しているところ。ボイラーについては、短期間で更新することは難しく、どこの企業も同じように何十年も使用している状況であると認識している。

【下元委員】

景観について、要約書5-29等で詳細に検討されていると思うが、既存の工場の煙突に、新たに新設のボイラーの煙突が増え、その煙突の色について配慮するということか。

【大王製紙】

煙突については、既存のものを利用する計画としており、煙突の新設はない。景観配慮については、ボイラー等の新設設備において、グレーや白色にすることを検討している。

【下元委員】

そうであれば、ボイラー等の新設設備は、敷地外からあまり見えず、景観への影響はあまりないということか。

【大王製紙】

その通りである。

【佐藤委員】

ボイラーの更新による温室効果ガスの排出量は 2013 年度比で約 26%削減となっているが、県の計画では 2030 年までに CO2 の 46%削減ということにしているので、検討を進めてもらいたい。

**【大王製紙】**

弊社としては、グループ全体として CO2 46%削減を目指していく計画である。

**【高橋会長】**

本日のまとめとしては、

- 事業にあたって、海外から燃料等を輸入するのであれば、外来種の侵入等の監視にも留意してもらいたい。
- ボイラーの更新計画については、排ガス等の性状を踏まえながら、メーカーの選定や処理方式等の検討をしてもらいたい。
- データの説明や言葉の定義をわかりやすくしてもらいたい。
- 地震等の災害時に耐え得る設備設計を行ってもらいたい。

という意見であった。

次回の審査会では、住民意見や関係自治体である四国中央市からの意見に対する事業者見解等を踏まえて、さらに検討を行って、本審査会としての意見をまとめたい。